

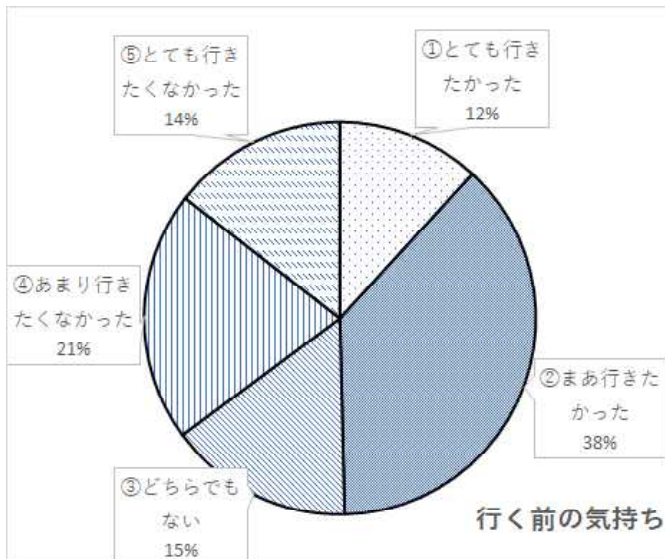
登山通信 No.2 全校登山を終えて

全校登山委員長：河竹

全校登山、お疲れ様でした。全員が無事に帰って来れたのが何より嬉しいです。さて、第5回山別会で、皆さんにアンケートをとっていただきました。その結果をお知らせします。設問の3～5は、アンケートの自由記述やクチコミを自然言語処理し、頻出語や特徴語を抽出するテキストマイニングの手法をとっています。

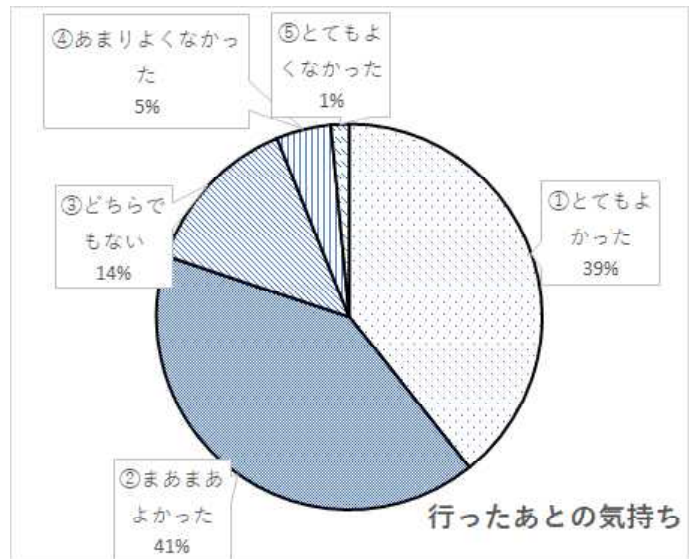
生徒のアンケート結果（回答数：262）

1 行く前の気持ち



①とても行きたかった	31人
②まあ行きたかった	99人
③どちらでもない	40人
④あまり行きたくなかった	54人
⑤とても行きたくなかった	38人

2 行ったあとの気持ち



①とてもよかった	103人
②まあまあよかった	107人
③どちらでもない	36人
④あまりよくなかった	12人
⑤とてもよくなかった	4人

行く前と行ったあとでは、とても大きな変化があったことが読み取れます。

①、②計：50% → 80%

④、⑤計：35% → 6%

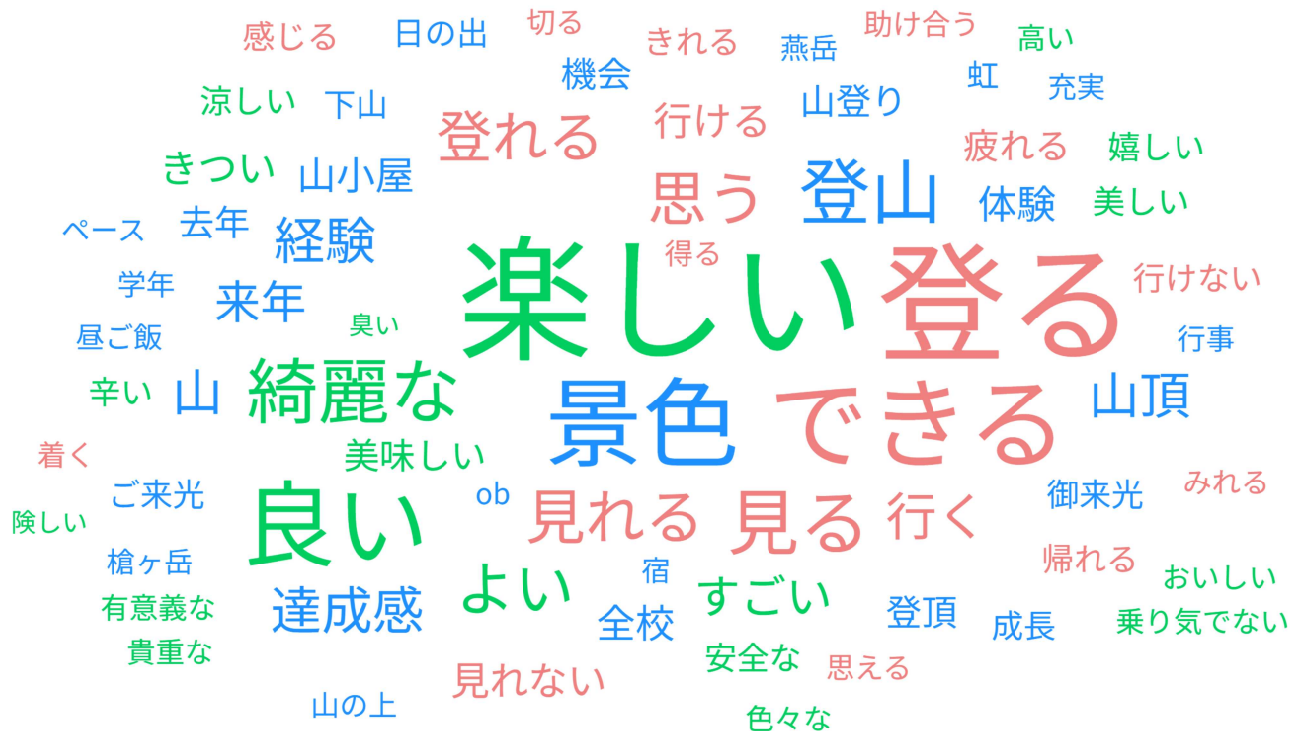
また行く前でも、5割の人たちが楽しみにしてくれていたことも、自分にとっては大きな喜びでした。

このほかにも電波が届かない、トイレが…と書いてくる人がいました。

いいですか。山は不便なところなのです。北アルプスの稜線上は水もありません。その中で、小屋の人たちがお客さんに少しでも快適に過ごしてもらえるよう、どれだけ努力しているか想像力を働かせて下さい。

電波にしてもそうです。普段自分がどれだけスマホに依存しているか、知る機会になりましたね。

5 自由記述



多くの方が「全校登山はよかった」と言ってくれていて、とてもうれしいです。

来年もぜひ、安全で楽しい全校登山を実施するため、係としても全力で取り組んでいきたいと強く思っています。よろしくお願いします。

最後に。今回の全校登山では、ガイド5人、医師看護師4人、そして本校 OBOG の方が30人近く協力してくれました。

その中でも特に知っておいてほしいのは OBOG のことです。

OBOG の多くは、わざわざ年休を取って全校登山に参加してくれました。

年休とは年次休暇のことで、1年間とれる日数が決まっています。普通は自分や自分の家族のために使うものです。それを「岳陽のために」と、その少ない休みを使って参加してくれたのです。

それも30人近くもの人が。

君たちはまだピンとこないかもしれませんが、ただでさえ少ない休みを人のため、この場合は岳陽生のために使うというのは、なかなかできないことです。

つまりそれだけ、**大町岳陽高校は地域の人から愛されている**のです。

そういう意味からも、全校登山は単なる学校行事ではありません。

地域から支えられていることを実感できる、そして地域とのつながりを象徴する、他の学校にはない、とてもユニークな行事なのです。

みんなにはそのことを誇らしく思ってもらいたいし、先輩方が築きあげた「地域から愛される学校」の伝統を、これからも守り続けてほしいと思います。

そして全校登山に参加した諸君はぜひ、このことを志望校での面接等で誇らしく語ってもらえると嬉しいです。